

「水島空襲の真実 ガラガラ音」

吉田敬治さん

今から70年前、太平洋戦争終結の年の水島空襲の⁽¹⁾惨状について、その真実を語りたいと思います。私は当時、三菱重工業水島航空機製作所に勤務していました。ここは、毎日、一万数千人の人が働いている、一式陸上攻撃機を製造する大きな工場でした。攻撃機の胴体を製造する第二組立工場では二千人以上が働き、そこが私の職場でした。

水島空襲の前日、昭和20年6月21日夕刻、連島町^{へらとり}籠取神社の近くにあった旅館で、工場長主催の懇親会が開かれ、役職者や技術者、約30人が参加して、厳しい戦争中とはいえ、楽しいひと時を過ごしました。宿直のため、その晩は同僚のK君と2人で宿直室に就寝しました。

翌朝午前7時頃に起床して、自分一人で、工場内外を巡回しました。内外ともに静寂そのものでした。雲が少し浮かんでいましたが、晴天でした。しかし、事態は急変しました。

午前8時25分頃、宿直室に帰ると、K君から「ラジオ放送で岡山県南部に空襲警報が発令されている」と教えられました。直後、第二報で「敵機は播磨灘^{はりまなだ}上空を西進中」との放送を聞き、慌てて、建物の北側の屋外に出て上空を見上げると、敵機はまだ見えず、青空の中を綿の様な白い雲が、亀島山上空から水島灘^{なだ}に向かって浮流していました。足は自然に北の方に向い、約10分後、気がつくや北の端、海軍部隊兵舎の東側付近の防空壕が点在する付近に到着していました。

東の空を見上げながら、土の中に造られた防空壕^{ごう}に避難しました。深さは1.6m位、幅は1m位、長さは3m位でした。この様な防空壕^{ごう}が土の中に五か所造られていました。鉄骨ではなく、丸太の木組でした。上空は依然として、白い雲の流れる青空でした。

「午前8時50分頃、米軍機編隊第一陣がかすかな爆音を響かせながら水島駅東方上空に出現する」。芥子粒位の点々に見えました。高度は8,500mか9,000m位

だったと思います。直後ガラガラガラと金属音が響き渡り30秒から40秒位続きました。後はザーザーザーと、その音は、⁽⁴⁾番傘に夕立ちの大雨が降りそそぐ音のようでした。「ザーザー音に代わって、耳が圧迫される」。「その直後ドドーン、ドドーン、ドドーンと⁽⁵⁾万雷の響きに似た爆発音が響き渡る」。防空壕^{ごう}の底で、今までに経験した事の無い、身震いする恐ろしさを体験しました。

B29爆撃機1機が500kg爆弾を10個運んで来たとしても、11機編隊で110個の爆弾を投下した事になります。爆弾を受けた時の強い衝撃は、あたかも雷が一度に100個以上落ちる衝撃に匹敵するように思いました。それぐらい、激しい空襲でした。

暫^{しばら}くして防空壕から出て、工場の方を眺めると製作所東北部の材料置場と機械工場方面から黒煙が立ち上っていて、南西の方向に向かって流れていました。

約10分経過した午前9時頃第二波の敵編隊11機が現れました。次第に機械工場、第一・第二・第三⁽⁶⁾板金工場と、西南へと爆撃目標が移動していきました。第六波攻撃で、私の職場・第二組立工場（胴体工場）は、無残にも爆撃されてしまいました。その後、七波攻撃から十波攻撃により、南の第一組立工場（総組立工場）、工場外に置かれた胴体部分、完成した飛行機等、数十機が破壊されました。

B29爆撃機は、種松山上空から水島駅上空に向かって一直線に飛来して、水島駅東側上空で爆弾を投下しました。空を見上げていると、爆弾を投下した11機編隊の爆撃機は機体が軽くなって、上空に浮か上がっていきました。そのまま編隊を変化させる事なく玉島方向に飛行を続けて行きました。



【一式陸上攻撃機の残骸（中央は銃座）】

午前10時頃、爆撃が終わったので10時50分頃から、K君と一緒に第二組立工場

に入って様子を見て回りました。工場東北部の屋根が広い範囲で破れ、鉄骨が曲がっているのが目に入ってきました。黒煙が立ち昇っている場所があるので近づいて見ると、攻撃機製造の図面である青写真が燃えており、火の付いた青写真、また灰になった青写真が、破壊された屋根の空間から空に舞い上がっていました。急いで^{ほうき}箒で火を^{たた}叩いて消しました。火が消えたので、北東部の食堂に通じる扉を開けて外へ出ようとした時、間近でドカーンと⁽⁷⁾轟音がしたので恐る恐る扉を開けてみると、工場と食堂の中間に直径い12～13m、深さ10m位の大穴ができていました。編隊を離れて遅れた1機が爆弾を投下したと想像しています。

以上が70年前の6月22日、^{びし}三菱重工業水島航空機製作所空襲の記憶です。22日の空襲に関して、製作所内での死傷者は⁽⁸⁾皆無と聞いて⁽⁹⁾安堵した記憶は、今でも鮮明に覚えています。

空襲で、大変に恐ろしい色々の音を聞きました。ガラガラ音は爆弾の先端部に装着された金属製の羽根車が回転して⁽¹⁰⁾起爆止めの安全装置を引抜く音です。未だに忘れることができない音になっています。

戦争は恐ろしい行為です。戦後70年が経ち、戦争体験をした人たちが少なくなってきました。戦争の悲惨さを後世に伝えることは重要です。90歳になった今、語り部として戦争の話を若い人たちに伝えていきたいと秘かに思っています。平和な日本、平和な世界であることを祈りながら。

-
- 1 惨状...思わず目をそむけたくくなるような、むごたらしいありさま。いたましいありさま。
 - 2 一式陸上攻撃機...第2次世界大戦中の日本海軍の主力中型爆撃機。一式陸攻と略称する。
 - 3 芥子粒...ケシの種子。きわめて小さいもののたとえ。
 - 4 番傘...竹骨に紙を張り油をひいた、粗末な雨傘
 - 5 万雷...多くの雷。転じて大きな音の形容
 - 6 板金...金属の板に力を加えて変形させ、決められた形状・大きさの製品を作ること。
 - 7 轟音...大きく鳴り響く音。
 - 8 皆無...少しもないこと。何もないこと。
 - 9 安堵...気がかりなことが除かれ、安心すること。
 - 10 起爆...火薬に爆発反応を起こさせること。